

イングリット・フジコ・ヘミング

ピアノ ソロ リサイタル 2017 ヤマハホール

Program

F.ショパン (1810-1849)

Frédéric Chopin

エチュード 変イ長調 作品25-1 「エオリアンハーブ」

エチュード 変ト長調 作品10-5 「黒鍵」

エチュード ホ長調 作品10-3 「別れの曲」

エチュード ハ短調 作品10-12 「革命」

ノクターン 変口短調 作品9-1

C.A.ドビュッシー (1862-1918)

Claude Achille Debussy

月の光 「ベルガマスク組曲」より 第3曲

雨の庭 「版画」より 第3曲

..... intermission

L.V.ベートーベン (1770-1827)

Ludwig van Beethoven

ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27-2 「月光」

S.ラフマニノフ (1873-1943)

Sergei Rachmaninoff

プレリュードト長調 作品32-5

F.リスト (1811-1886)

Franz Liszt

「3つの演奏会用練習曲」変二長調 作品144より 第3番
「ため息」

「3つの夜想曲 愛の夢」変イ長調 作品541より 第3番
パガニーニによる大練習曲 イ短調 作品141より 第6番
「主題と変奏」

パガニーニによる大練習曲 嬰ト短調 作品141より 第3番
「ラ・カンパネラ」

※演奏曲目、曲順が一部変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

イングリット・フジコ・ヘミング (ピアノ)

Ingrid Fuzjko Hemming, piano

母の手ほどきでピアノを始め、10歳でレオニード・クロイツァーに師事。クロイツァーは「彼女はいまに世界中の人々を感激させるピアニストになるだろう」と予言をしていた。東京藝術大学を経て、文化放送音楽賞、NHK 毎日音楽コンクール入賞。その後、ベルリン高等音楽学校に首席で入学し、ウィーンではパウル・バドゥラ＝スコダに師事。ブルーノ・マデルナ、レナード・バーンスタイン、チェルカウスキー、マガロフ等多くのクラシック界の権威にその才能を認められて支持を獲得しコンサートを行っていたが、聴力を失うアクシデントに遭遇。1999年にリサイタルとNHKドキュメント番組が大反響を呼び、デビューCD《奇蹟のカンパネラ》他をリリースし、クラシック音楽界では異例の売上げ枚数で日本ゴールドディスク大賞のクラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを4回受賞。リサイタルは日本全国その他、カーネギーホールを始めとする世界各国の著名コンサートホールで開催しており、ヨーロッパの数々のフェスティバルからも招待されている。彼女と共演した世界的チェリストのミッシェル・マイスキーは「あなたの芸術を賞賛します」と形容している他、共演した多くのアーティストが絶賛している。2013年にはスペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーによってフジコの最新CDが第1位に選ばれた。2014年には9月から11月まで、ヨーロッパ9カ国11会場で演奏会を開催し、各地でスタンディングオベーションを受けて大好評を博した。2015年6月にはプラハ放送交響楽団と共演、また12月にはキエフ国立フィルハーモニー交響楽団との共演、2004年頃から何度も共演しているモスクワフィルハーモニー管弦楽団と2016年2月に再び共演し素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。2016年4月にはニューヨークの国連本部会議場で「日本国連加盟60周年記念」の文化事業で演奏し拍手喝采。その後チリ、アルゼンチン、マナウス、パラグアイでも「日本人移民開始80周年記念文化事業」コンサートと南米ツアーを大好評で終えた。秋にはヨーロッパ6カ国10公演を行い、日本では、エルサレム交響楽団などと精力的に演奏活動を行い2017年4月にはイタリア国立管弦楽団と共演、5月にアメリカツアーを大成功で終えた。6月以降モスクワフィルハーモニー管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ロシア国立交響楽団、バルチック弦楽四重奏団と共演、ブタペスト、キエフなどでソロ公演を大盛況でおえた。夏のポーランドフェスティバルに出演、現地のラジオ局は、『コンサートで観客は、ショパン、リストなどの曲の演奏に酔いしれた。彼女のピアノ演奏は綺麗だった。私は、この時代に技術的で美しく演奏するようなピアニストを聞いたことがない。彼女は作曲家の全てのキャラクターと魂を再現した。それは美しかった。』と大絶賛の評価を受けた。2018年には、チェンバーオーケストラ、スロバキア国立放送交響楽団等から共演依頼ヨーロッパ各地やアメリカからも出演、共演依頼や招待が来ている。今後の企画公演として2018年7月1日に昭和女子大学人見記念講堂でソロ・コンサートが予定されている。

企画・制作：ラ・カンパネラ/青葉ピアノ